

資料館インフォメーション

春の特別企画展

『見て触って考えるイタイイタイ病講座・語り部リレー講話』
【入場無料】

資料館の展示の中で特に理解しづらいカドミウムの体への影響や患者の病態について、富山大学大学院医学薬学研究所病理診断学講座の協力のもと、分かりやすく解説する公開講座を開催します。

講座では、病理標本をコンピューターで拡大して見たり、臓器模型を直接触ったりしながら学びます。

また、ゴールデンウィーク中、毎日、日替わりで8名の語り部が順に講話を行う語り部リレー講話を行います。

〇見て触って考えるイタイイタイ病講座

日時：平成29年4月29日(土・祝) 14:00～15:30
場所：イタイイタイ病資料館 2階 交流学習ルーム

〇写真・ポスター掲示

日時：平成29年4月29日(土・祝)～5月7日(日)
9:00～17:00

場所：イタイイタイ病資料館 2階 交流学習ルーム
内容：イタイイタイ病の病理学的解説写真等の展示

〇語り部リレー講話

日時：平成29年4月30日(日)～5月7日(日)
場所：イタイイタイ病資料館 2階 交流学習ルーム
内容：期間中毎日、午前と午後各1名ずつ語り部講話を実施



資料館の動き

これまでの出来事 (平成28年度下半期)

- 平成28年度
- 10月 1日(土) 四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～
 - 1月 6日(金) 入館者150,000人達成(1,449日)
 - 2月18日(土) イタイイタイ病を考える県民フォーラム

これからの行事予定 (平成29年度上半期)

- 平成29年度
- 4月29日(土・祝)～5月7日(日) 春の特別企画展『見て触って考えるイタイイタイ病講座・語り部リレー講話』
 - 7月28日(金)～29日(土) 夏休み自由研究講座～イタイイタイ病を学ぼう～
 - 8月 4日(金) イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
 - 8月17日(木) イタイイタイ病資料館活用研修会

〇中学生向け副読本を作成しました

資料館では、次代を担う中学生にイタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史、環境と健康の大切さを学んでもらえるよう、写真や資料を多く採り入れた副読本「甦った豊かな水と大地」を作成いたしました。

この副読本は、県下の全中学校の新2年生に配布いたします。資料館見学前の事前学習や社会・理科等の授業で是非、ご活用ください。



〇課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ

～今年も無料送迎バスを提供します!!～

今年も多くの子どもたちにイタイイタイ病の恐ろしさやその克服の歴史を学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。

また、近接する「四季防災館」も見学する場合は、無料区間が延長され、より利用しやすい内容になっています。たくさんのご利用をお待ちしています。

利用方法等詳しくは、資料館までお尋ねください。

3月24日(金)
募集開始!!



〇語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体(原則10名以上)で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。

詳しくは資料館ホームページをご覧ください。

発行/富山県立イタイイタイ病資料館 〒939-8224 富山県富山市友杉151番地(とやま健康パーク内)

電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833

(平成29年3月発行) URL▶http://www.pref.toyama.jp/branches/1291/ 富山県

富山県立イタイイタイ病資料館
Toyama Prefectural Itai-itai Disease Museum

資料館だより

2017年 春号

contents

- イタイイタイ病の教訓を次世代へ………2
- 公害の事実と教訓を語り継いでいくために………2
- 学びを振り返って………3
- 資料館の語り部さんです………3
- 資料館インフォメーション………4



平成29年 2月18日 イタイイタイ病を考える県民フォーラム開催



知事挨拶



富山市立城山中学校



イタイイタイ病対策協議会
会長 高木 勲寛氏



富山県立富山中部高等学校
探究科学科



富山福祉短期大学 看護学科



記念講演(講師:野口 健氏)



イタイイタイ病を考える県民フ

中学生向けのイ病副読本を提供します

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 鏡 森 定 信

本資料館は開館6年目に入ります。この1月には来館者が15万人を超えました。そのうち、団体来館者の割合は約30%で5万人弱です。この割合は、開館以来大きな変化はありません。しかしながら、団体来館者の構成が徐々に変化してきています。

小学生から大学生までの占める割合は、開館から3年目では成人一般とほぼ同じで半々でした。しかし、この5年間では小学生から大学生までの割合が60%近くまでになりました。実際、中学生や高校生の来館を目にすることが徐々に増えてきています。

このような変化に 대응べく、資料館の運営にご尽力いただいている機関や組織のご協力を得て、現場の教員の皆さんの執筆による中学生のためのイ病副読本を作成しました。これを県下の全中学校の新2年生に配布いたします。来館前や来館後に利用していただくことを切望しております。

これまで、小学5年生のイ病の副読本などで事前学習をして来館された学校では、学習効果が大きいことを経験しております。

今後も資料館の役割を深めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



イタイイタイ病の教訓を次世代へ

2月18日(土)、「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催し、約110名の方が参加されました。鏡森館長による開会挨拶の後、イタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長より、「イタイイタイ病対策協議会50年のあゆみ」と題し、昨年11月に結成50周年の節目を迎えられたことから、当時の新聞記事や写真を交えながら、これまでの活動を振り返り、「公害を繰り返さないためにもイタイイタイ病を忘れてはならない。その教訓を若者に伝える責務がある。」と述べられました。

資料館の事業報告、石井知事の挨拶に続き、学習発表会では、次代を担う県内の中学生や高校生、看護学生より資料館の見学を踏まえ学習・研究した成果を発表していただきました。

フォーラムの最後は、記念講演として、アルピニストの野口健氏をお迎えして、「世界の山から学んだ環境問題」をテーマに、エベレストや富士山でのゴミ拾いを始めたきっかけなど、ご自身の体験や活動を交えながら、身近な環境問題に取り組むことの大切さについてお話いただきました。

【発表者と発表内容】

- ・富山市立城山中学校 (1年生)
資料館の見学を通して、富山県とイタイイタイ病との関係を「環境」をキーワードにしてまとめたことを発表。
- ・富山県立富山中部高等学校 探究科学科 (1年生)
資料館の見学を通して感じたことや学んだこと、特に現在までの環境改善、復旧のことについて発表。
また、見学した生徒80名の感想を抜粋してまとめ、今後の日本を担っていく若者としてイタイイタイ病の教訓をどのように将来に生かしていくかについても発表。
- ・富山福祉短期大学 看護学科 (2年生)
〈グループ1：公害から学ぶ〉
日本国内で起きたイタイイタイ病を含む公害について学んだことで、今、私たちに何ができるかについて考えてみた。
〈グループ2：イタイイタイ病の語り部の話を聞いて〉
語り部の体験談を聴き、イタイイタイ病の恐ろしさを知ったことで、将来、看護師になる私たちに何ができるかについて考えてみた。



参加者の声

学習発表会を見て、環境の大切さやイタイイタイ病の教訓といった意識を若い世代へ継承していかなければならないと感じました。(30歳代・男性)

イタイイタイ病を風化させてはならないと改めて感じました。(50歳代・男性)

イタイイタイ病の被害の克服に向けた関係者の努力があったことを知り感動しました。今回のフォーラムを機に、イタイイタイ病について学んでいきたいと強く思いました。(50歳代・女性)

若者がイタイイタイ病について学んだ成果を発表されることは、大変有意義で素晴らしいことだと感じました。(60歳代・男性)



公害の事実と教訓を語り継いでいくために



●「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。

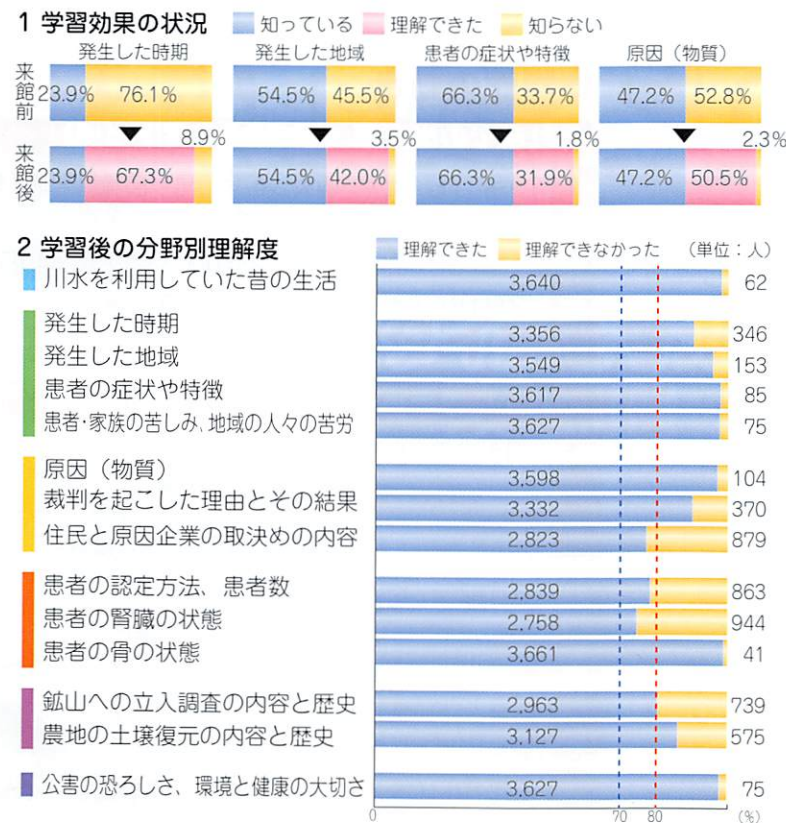
10月1日(土)、四大公害病の語り部が一堂に会し、それぞれが経験された公害について語っていただく伝承会を開催しました。

前半は、水俣市立水俣資料館の前田恵美子さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の稲垣シズエさん、四日市公害と環境未来館の伊藤三男さん、そして、イタイイタイ病資料館の大上久彦さんに、実体験を踏まえながら被害の歴史や克服までの過程、公害の恐ろしさや当時の暮らしの様子などを順に語っていただきました。

また、後半では、講話いただいた4人の語り部とイタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長、資料館の鏡森館長も加わり、「公害の教訓継承に向けて」をテーマに、公害の教訓を風化させないため、特に若い世代にしっかりと語り継いでいくための方策などについて意見交換が行われました。



学びを振り返って～課外学習サポート事業調査結果報告から～



調査結果から

1 学習効果の状況

調査項目の全てにおいて、来館前に「知らない」と回答した子どもたちのうち、来館後には約9割が「理解できた」と回答があり、資料館での学習が子どもたちの理解に着実に結びついていることがわかりました。

2 学習後の分野別理解度

分野の大半で8割以上が「理解できた」とする中で、「住民と原因企業の取決めの内容」、「患者の認定方法、患者数」、「患者の腎臓の状態」の3分野では、理解度が7割台に留まりました。こうした分野では、解説の工夫を行うなど理解度の向上に向け、取り組みを行ってまいります。

イタイイタイ病を語り継ぐ 資料館の 語り部さんです



高木良信さん(86歳)

資料館の語り部の方をシリーズで紹介します。
今回は、資料館の開館から5年間、語り部をされている高木良信さんと青木有明さんにこれまで活動されてきて、うれしかったことや今後伝えていきたいことについて聞いてみました。

高木さんは、イタイイタイ病対策協議会の設立当初から副会長を務められている方です。高木さんのお母さんは、イタイイタイ病患者で、1955年(昭和30年)に亡くなりました。裁判闘争はもちろん、現在も続く発生源対策などについて、詳しい内容で細かな数値までも原稿なして語られる姿に、高木さんの運動への執念を感じ取ることができます。

Q1 これまで活動されてきて、うれしかったことは?

・特に小学生から大学生までの若い方々が、真剣に話を聴き、質問されること。
また、質問に対して答えることで、彼らが理解していただけるとなおうれしくなる。

Q2 語り部として今後、伝えていきたいことは?

・イタイイタイ病は終わったわけではなく、現在も患者がおられることから、二度と悲惨な公害が起こらないように事実を後世に伝えて関心を持ち続けてもらいたい。



青木有明さん(94歳)

青木さんのお母さんは、イタイイタイ病患者で、1952年(昭和27年)頃に発症し、治療法もなく、20年間自宅で病氣と闘った末、1972年(昭和47年)の大晦日に亡くなりました。青木さんの語りは、年齢を感じさせない歯切れのよい口調で、青木さん直筆のお母さんの肖像画なども織り交ぜたわかりやすい講話は、聴講者らに深い感銘を与えています。

Q1 これまで活動されてきて、うれしかったことは?

・昨年、講話を行ったある中学校からお礼の手紙をいただき、生徒達の講話を聴いた感想を見て、私自身、話し方の結果を確認できたこと。さらに頑張ろうと意欲が出る。

Q2 語り部として今後、伝えていきたいことは?

・自らの体験から語り得ることを最大限に表現してより多くの感銘を与えることが大切だと考える。今後は、主に以下の点に注力していきたい。
①表現の言葉を選ぶ大切さ
②イタイイタイ病患者の一人として、私の母親がどのように生きたのか、もう少し重点的に話をしていきたい。
③現在の我々の生活との落差を踏まえ、今日、平和で環境が良く健康で豊かな生活を送れることが「幸福」な社会に繋がる。こういった社会を守っていきたい。